

令和4年度 防府市における 高齢者虐待の現状について



防府市の高齢者の状況について (令和5年11月末現在)



- 人 口 : 1 1 3 , 8 2 5 人
- 高齢者数 : 3 5 , 2 2 7 人
- 高齢化率 : 3 1 . 0 %

虐待・暴力に関する相談担当課

防府市役所

健康福祉部

高齢福祉課

高齢者虐待防止法

障害福祉課

障害者虐待防止法

社会福祉課

DV（配偶者）防止法

こども家庭課

児童虐待防止法

地域包括支援センター



地域包括支援センター位置図

市内に
5つ

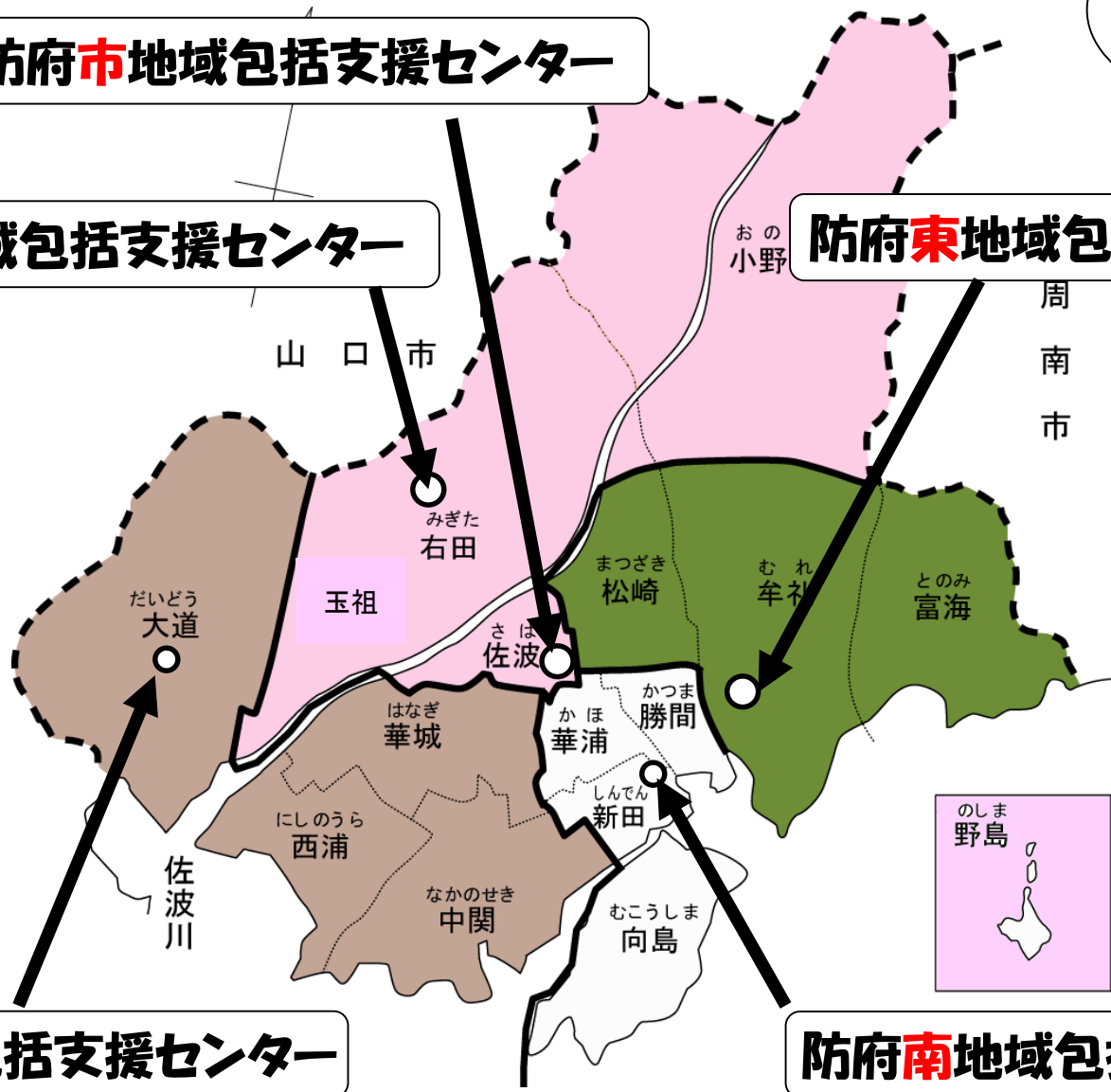
防府市地域包括支援センター

防府北地域包括支援センター

防府東地域包括支援センター

防府西地域包括支援センター

防府南地域包括支援センター



虐待の種類・サイン

身体的虐待

暴力行為などで、身体に傷やあざ、痛みを与える行為、外部との接触を意図的・継続的に遮断する行為。

- 顔や体に傷やあざがある。
- 傷やあざの説明のつじつまが合わない。
- おびえた表情をしたり、急にこわがったりする。
家族のいる場面、いない場面で態度が異なる。
- 「怖い」「痛い」「怒られる」「家にいたくない」「殴られる」という発言がある。
- 自由に外出できない、自由に家族以外の人と話すことができない。等

虐待の種類・サイン

介護・世話の放棄、放任

介護や生活の世話を行っている者が、その提供を放棄または放任し、高齢者の生活環境や、高齢者自身の身体・精神的状態を悪化させていること。

- 身体から異臭がする。汚れがひどい髪。皮膚や粘膜がただれている。爪が伸びて汚い。
- 着の身着のまま。濡れたままの下着。汚れたままのシーツ。
- やせが目立つ。菓子パンのみの食事、余所ではガツガツ食べる。
- 介護保険サービスの利用が必要であるが未利用、勧めても無視あるいは拒否、必要量が極端に不足している 等

虐待の種類・サイン

心理的虐待

脅しや屈辱などの言語や威圧的な態度、無視、嫌がらせ等によって、精神的屈辱を与えること。

- 老化現象やそれに伴う言動などを嘲笑したり、それを人前で話すなどにより、高齢者に恥をかかせる。
(排泄の失敗、食べこぼしなど)
- 怒鳴る、ののしる、悪口を言う。
- 屈辱を込めて、子どものように扱う。
- 排泄交換や片付けをし易いという目的で、本人の尊厳を無視してトイレに行けるのにオムツをあてたり食事の全介助をする。 など

虐待の種類・サイン

性的虐待

本人との間で合意が形成されていない、あらゆる形態の性的な行為またはその強要をすること。

- 生殖器などの傷や出血、かゆみの訴えなどがある。**
 - おびえた表情をする、怖がる、人目を避けたがる。**
 - 関係者に話すことをためらう、援助をうけたがらない。**
- 等**

虐待の種類・サイン

経済的虐待

**本人の合意なしに財産や金銭を使用し、
本人の希望する金銭の使用を理由なく制限すること**

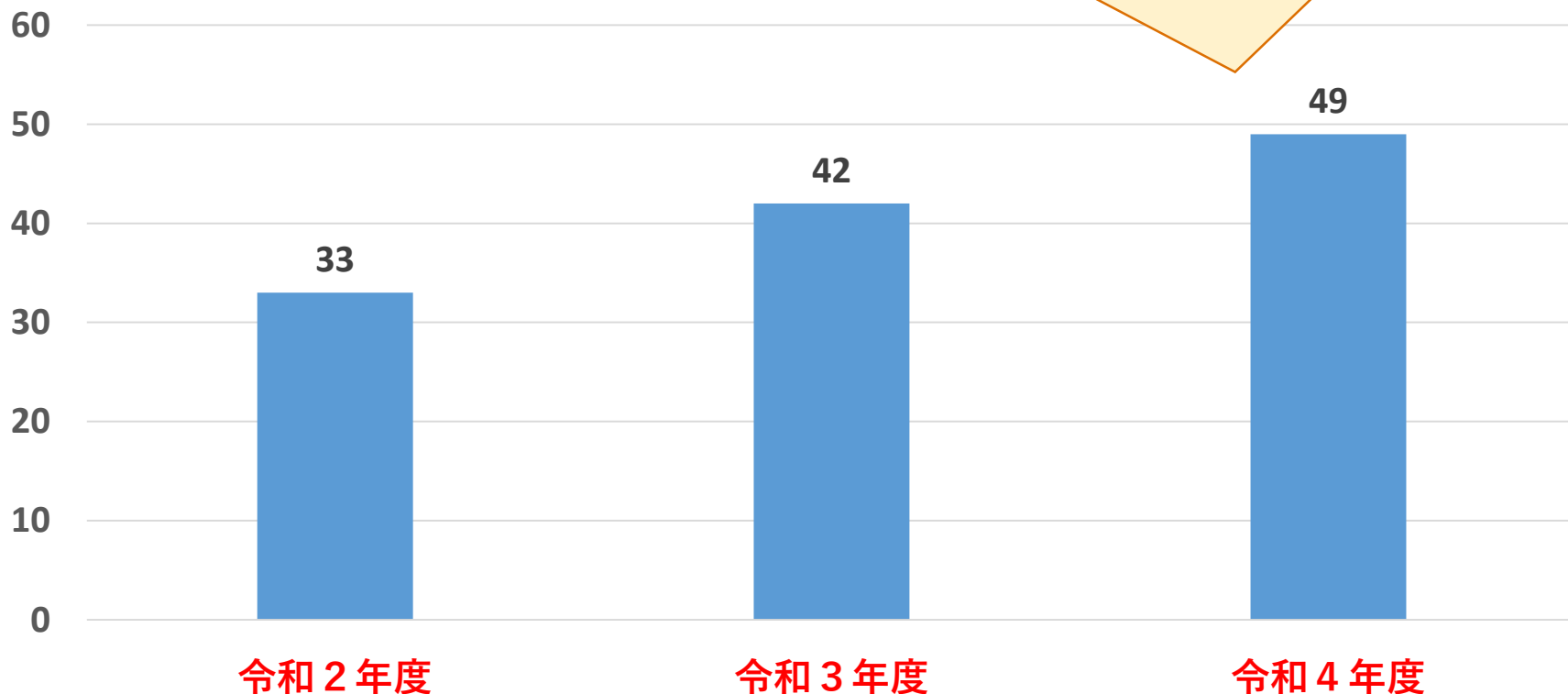
- 「お金を盗られた」「年金が入ってこない」「貯金がなくなつた」といった発言がある。
- 資産と日常生活の大きな落差、食べるものにも困っている、年金通帳・預金通帳がない
- 入院や受診・介護保険サービスなどの必要な費用を支払えなくなる、サービスの利用をためらう 等

高齢者虐待相談件数の推移（年度別）

令和4年度以前からの

継続事例：14件

令和4年度の新規相談：35件



虐待の相談・通報者

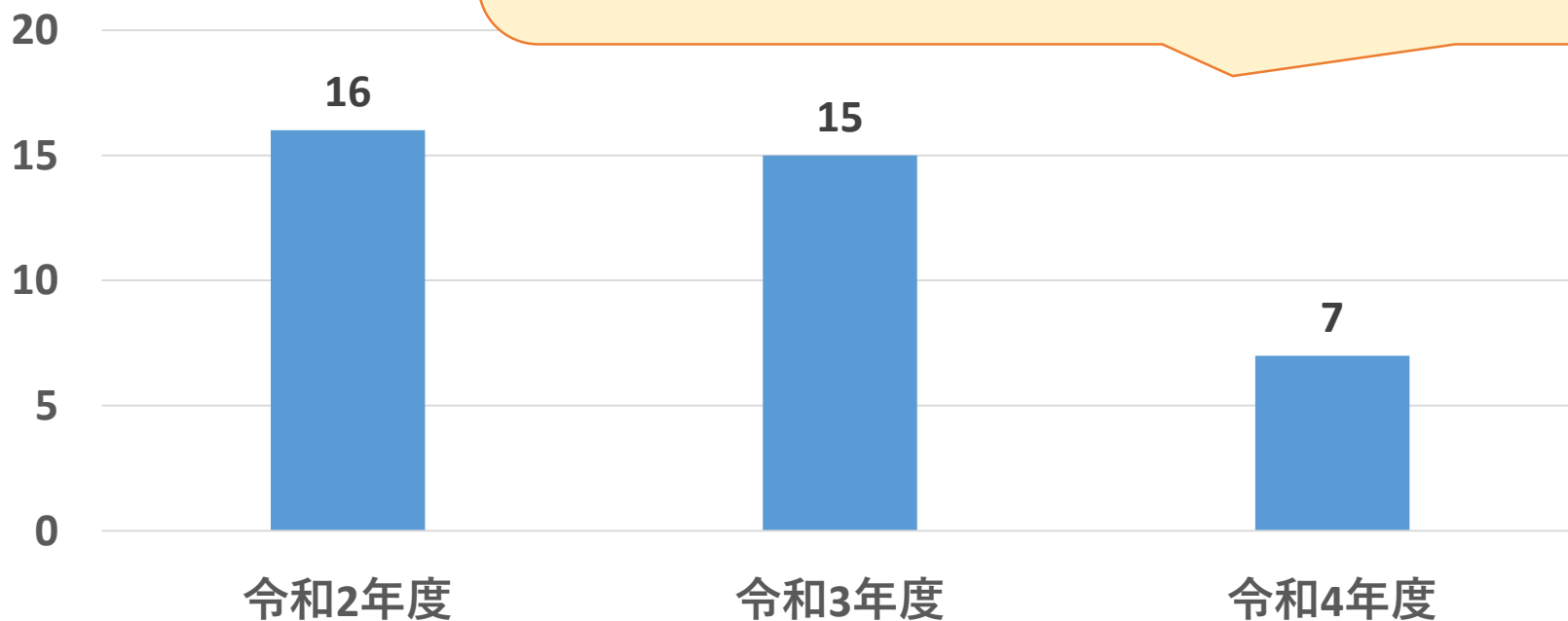
通報者	件数
介護支援専門員（ケアマネジャー）・ 介護保険事業所職員	7
医療機関従事者	0
近隣住民・知人	0
民生委員	1
被虐待者本人	1
家族・親族	6
虐待者自身	0
行政職員	3
警察	16
その他	3
合計	38

警察からの通報が
42.1%と最も
多くなっている。

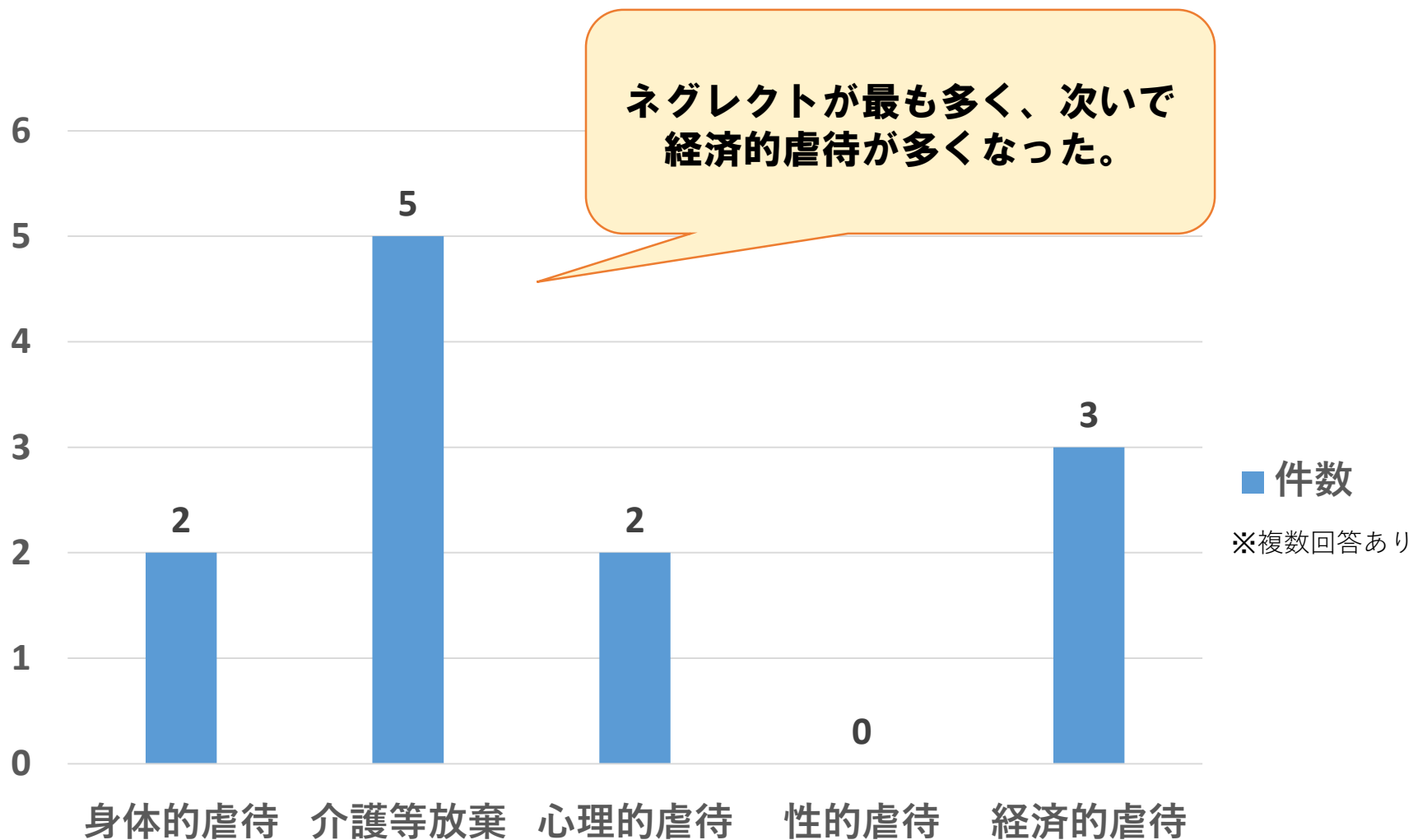
- その他3件
- ・消防署職員
 - ・社会福祉協議会
 - ・障害関係職員

虐待の認定件数

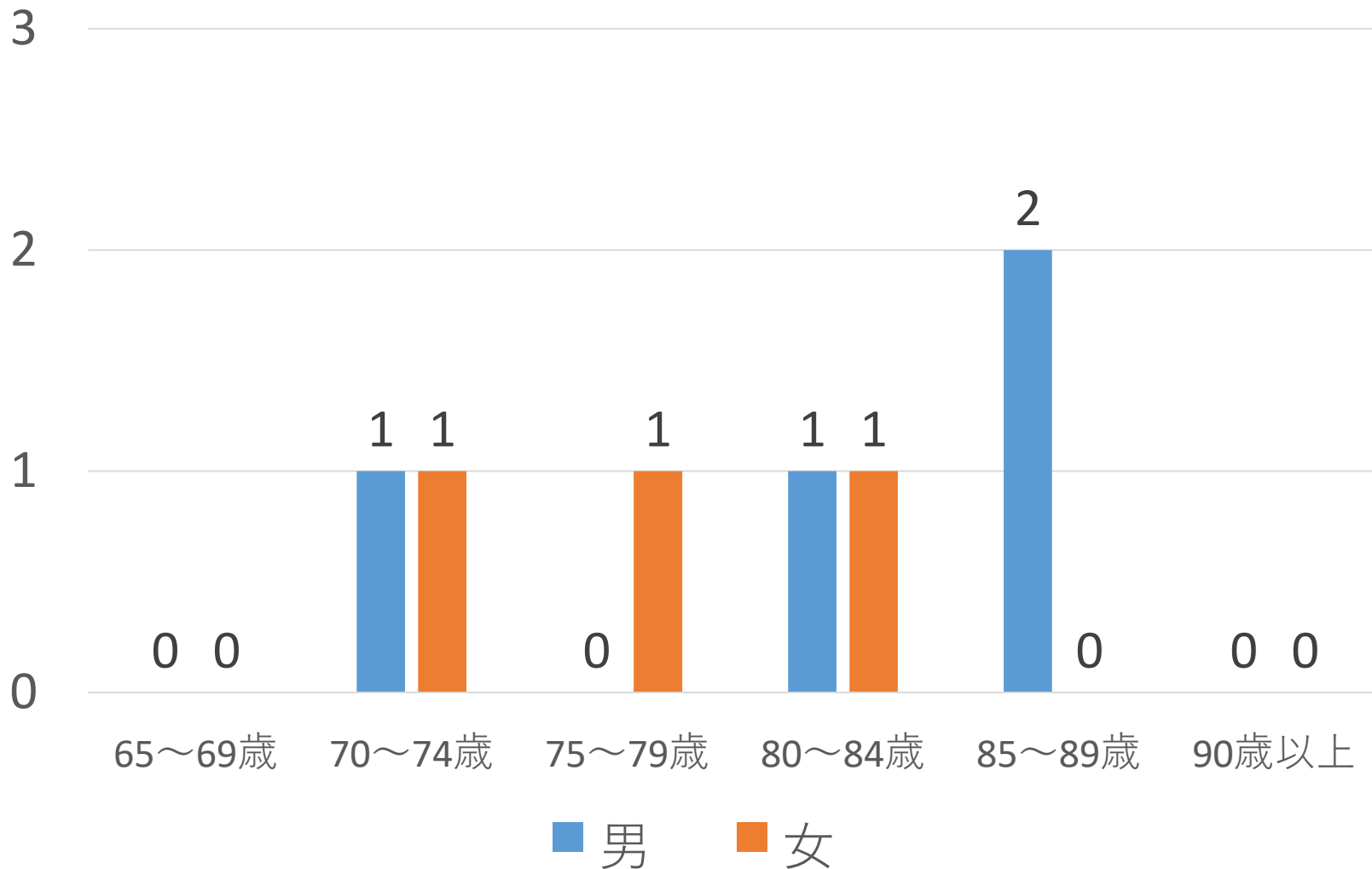
令和4年度に相談や事実確認を行った
34件のうち、7件を認定



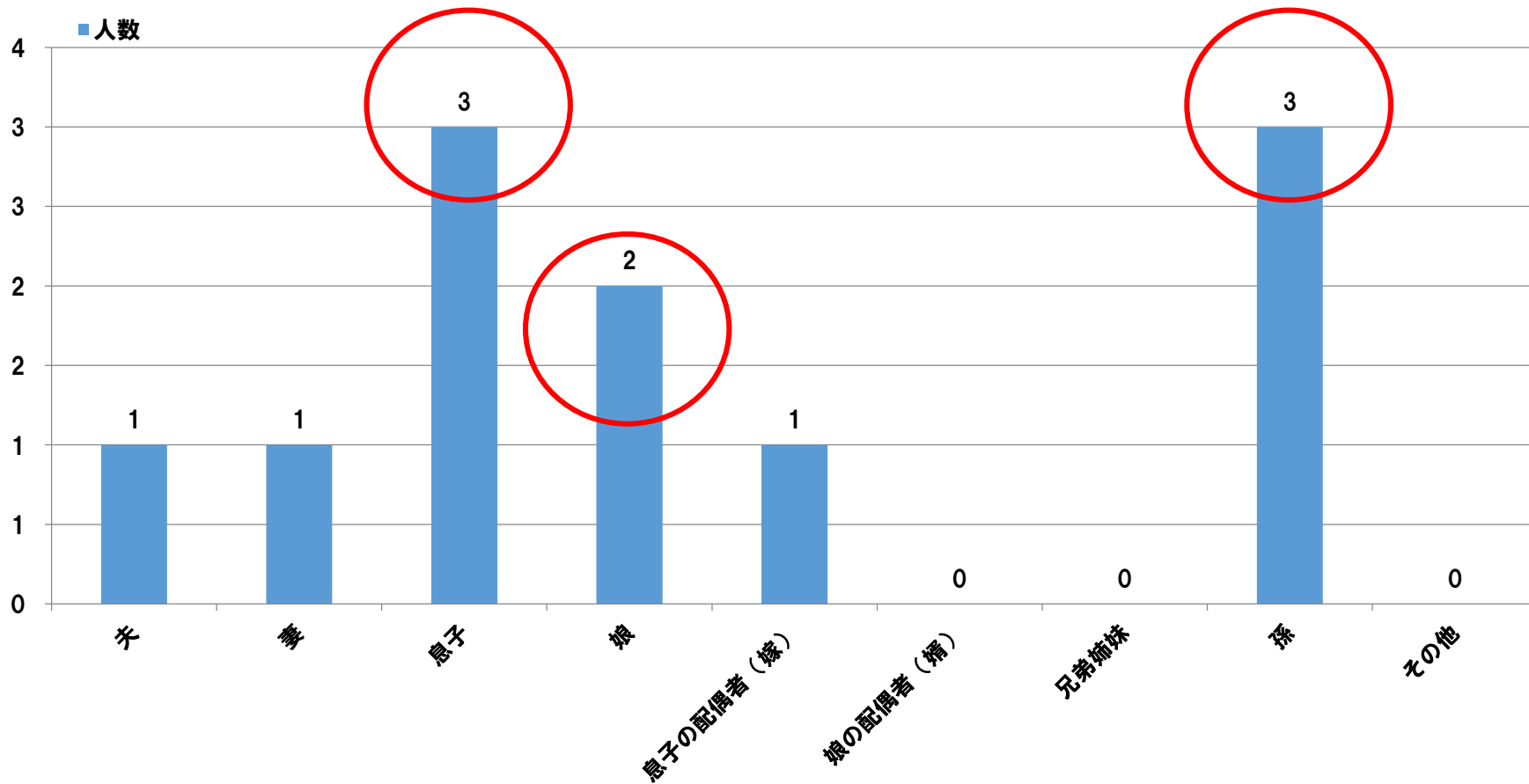
虐待の種類（複数回答）



被虐待者の年齢と性別

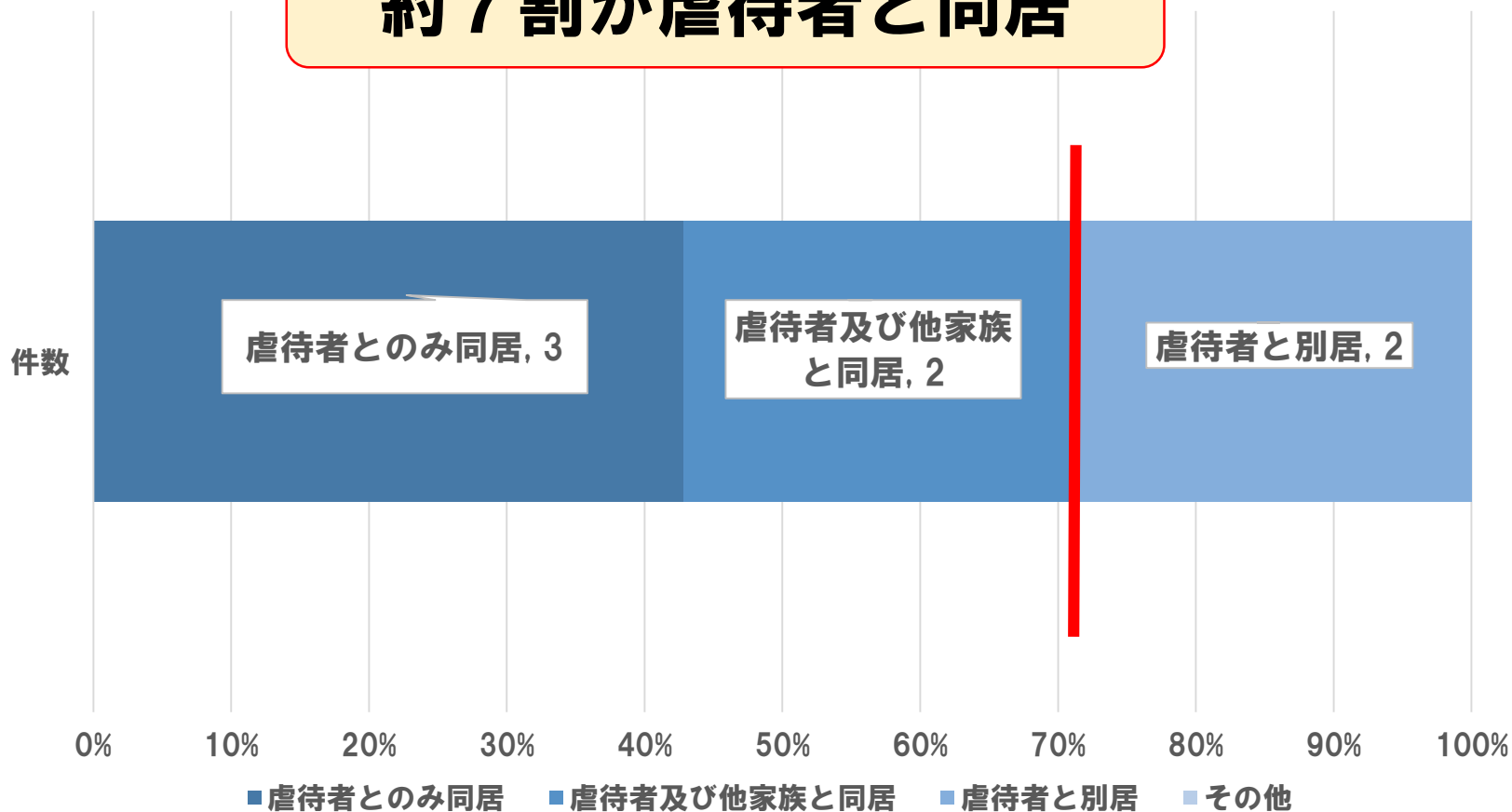


被虐待者から見た虐待者の続柄

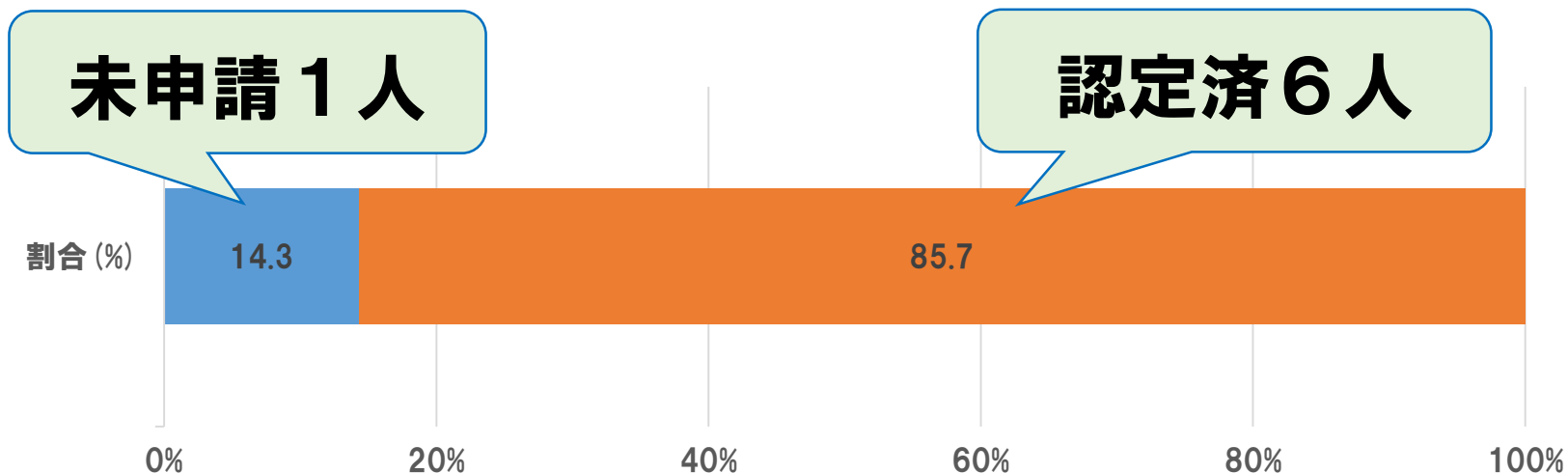


虐待者との同居の有無

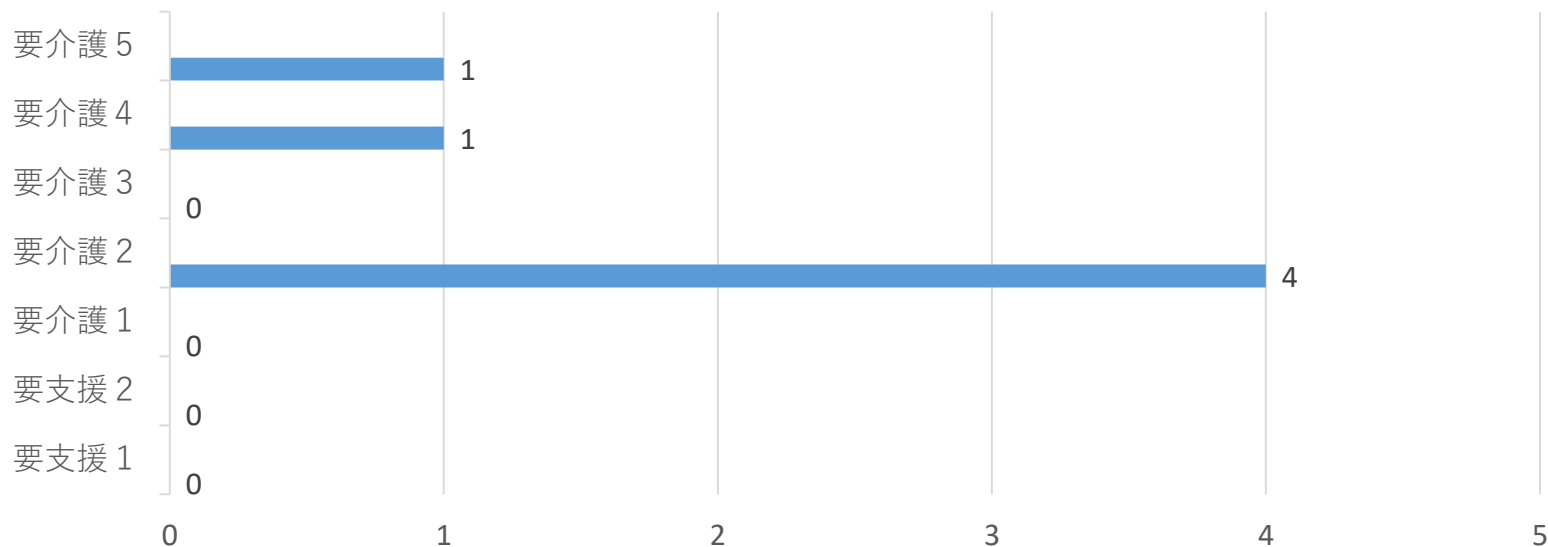
約7割が虐待者と同居



被虐待者の介護保険の申請



介護保険認定済者の要介護度内訳



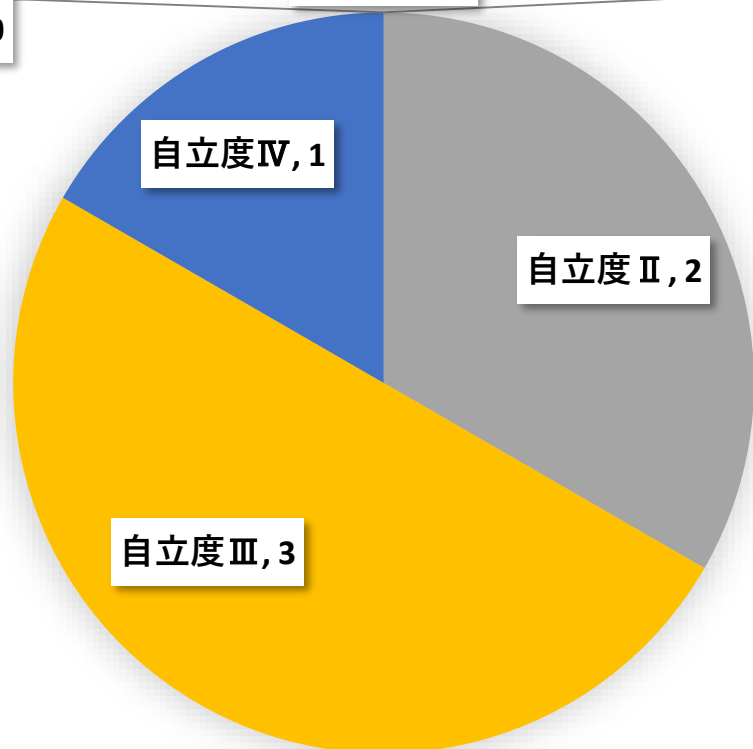
介護認定済者の認知症日常生活自立度

全員、日常生活に支障をきたす自立度Ⅱ以上

自立又は認
知症なし, 0

自立度M, 0

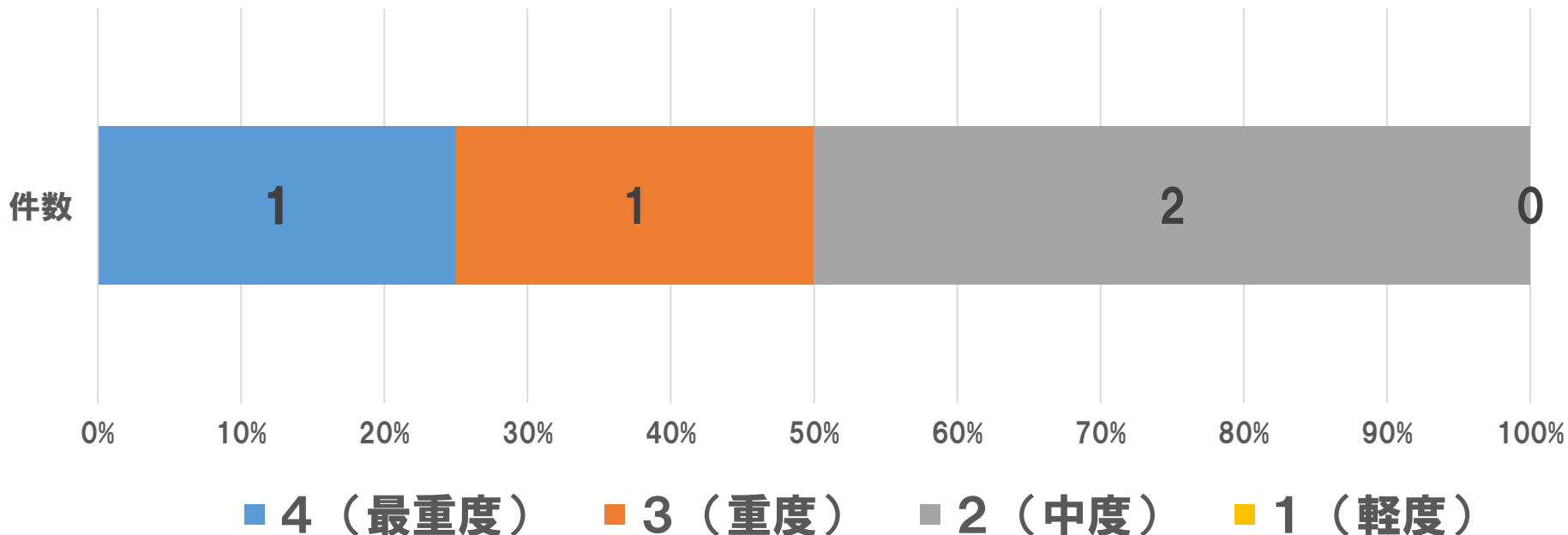
自立度
Ⅰ, 0



- 自立又は認知症なし
- 自立度Ⅰ
- 自立度Ⅱ
- 自立度Ⅲ
- 自立度Ⅳ
- 自立度M

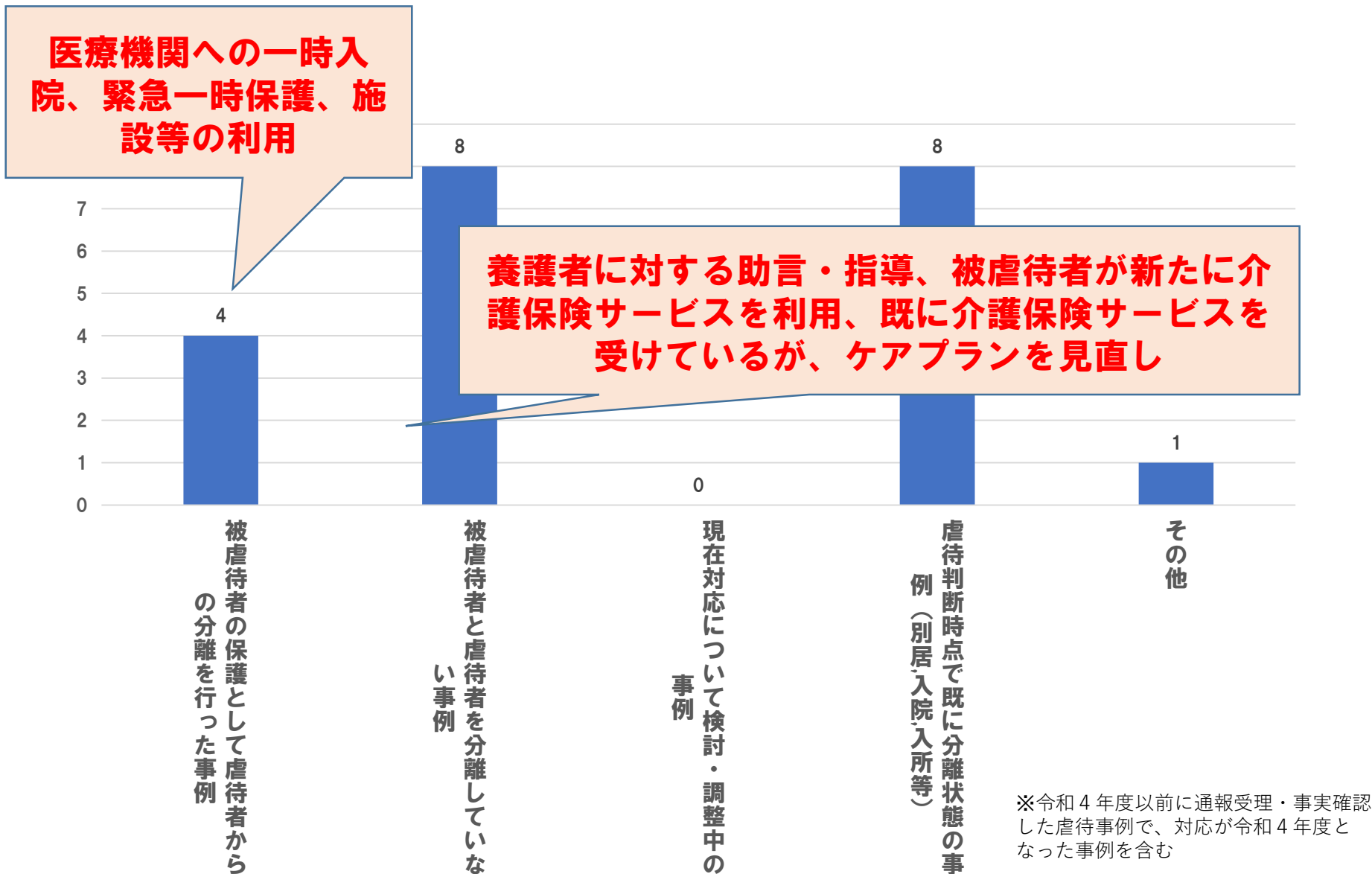
単位：人数

虐待の深刻度



- 4 (最重度)** : 生命の危険や心身への重篤な影響、生活の危機的状況
- 3 (重度)** : 重大な健康被害が生じている、生活の継続に重大な支障が生じている
- 2 (中度)** : 権利侵害行為が繰り返され、高齢者の心身への被害・影響や生活面で支障が出ている
- 1 (軽度)** : 高齢者の意思を無視した行為、介護者の都合によるケア等が行われている、軽度の被害・影響が生じている

虐待事例への対応方法（分離の有無）



虐待の発生要因

被虐待者（高齢者）側の要因

- 認知症の症状
- 精神疾患（疑いを含む）、認知機能の低下
- 身体的自立度の低さ
- 排せつの困難さ 等



虐待の発生要因

虐待者（養護者）側の要因

- 介護疲れ・介護ストレス
- 介護力の低下、知識や情報の不足
- 性格の偏り、精神状態が安定していない
- 被虐待者との虐待発生までの人間関係 等
- 経済的な問題
- 家族関係の問題
- ケアサービスの不足の問題 等

まとめ

◎相談件数、虐待件数について

- ・令和3年度に比べ、**相談件数は増加**。
- ・相談者は、警察からが一番多く、ケアマネ、民生委員、消防、社協など、以前より**多方面から相談・通報**があった。

◎被虐待者の状況

年齢や性別に突出した違いはないが、被虐待者の**約9割**が介護保険の認定を受けており、**全ての対象者**に認知症の症状がみられる。

◎虐待者の状況

子どもからの虐待が多く、約7割が**同居**している。

◎虐待の要因として考えられること

- ・被虐待者の認知症・疾病等の進行による介護負担の増加、虐待者の介護疲れ
- ・虐待者の**認知症**の知識や情報の不足、理解力の不足
- ・虐待者（**養護者**）**支援**の視点